

大雪に対する備え:一部防災士教本より出典

1. 大雪による災害

1) ライフライン

- (1) 電気・・・停電 ①テレビ(情報不足)
②暖房(エアコン、ファンヒーターなど)
③照明
- (2) 水道・・・凍結 ①飲料水
②お風呂
- (3) 電話・・・携帯電話やスマートフォンの電源(充電)

2) 交通災害

- (1) 空港閉鎖、電車運休、高速道路閉鎖
- (2) 倒木や雪崩・・・一般道路の通行止め
- (3) 電線の切断・・・感電注意(近づかないこと)
- (4) 道路の凍結・・・車の渋滞、交通事故、転倒
- (5) 氷柱(つらら)・・・秘かな凶器

3) 除雪時の災害

- (1) 落雪事故・・・屋根から落下する雪の下敷きになる。
- (2) 転落事故・・・屋根から落ちる。
- (3) 家庭用除雪機巻き込まれ事故・・・エンジンを止めずに雪の取込口の氷や雪を取り除いたり、整備を行わないでください。
- (4) 心臓発作(麻痺)・・・急に寒さにさらされたり(ヒートショック)、急な運動(除雪作業)により、身体に無理がかかり発生します。

2. 心身的には

- ・「暗い」「寒い」「情報がない」は、心身的ダメージは大きいです。
- 避けられるものなら、避けたいものです。

3. 大雪への備え

1) ライフライン

- (1) 停電・・・①情報はラジオ(電池のスペアの買い置きを)
②暖房はストーブやカイロ(灯油の買い置きを)※
③照明は懐中電灯やろうそく(電池のスペアの買い置きを)※
※火災に気を付けてください。
- (2) 凍結・・・凍結防止器の設置または、保存用飲料水。
- (3) 電話・・・発電機や手回し充電器付ラジオなどの準備

2) 交通災害

- (1) 車が立ち往生したときは、車に留まり寒さをしのいでください。
うかつに外に出ないで、暖をとりましょう。
また、ハザードランプを点灯させて車の場所を知らせることも忘れずに、衝突防止にもなります。更に、エンジンを掛けてエアコンで暖を取るとして、マフラーに雪が詰まり車内に排気ガスが充満すると、一酸化中毒や窒息の恐れがあります。定期的に換気と雪かきをします。
この時には、ライトも雪かきします。
これらは、ガソリンが十分な量であることが必要です。普段からガソリンの残量が半分程度で、補充するようにしましょう。
- (2) 倒木や雪崩・・・チェーンソーやのこぎり、スコップなどの脱出用具の準備が必要になります。こんなときは、Uターンして迂回することも考えて行動することも必要です。
- (3) 道路の凍結・・・車の場合はチェーンや徒歩の場合はスパイクなどの滑り止めが必要になります。

3) 除雪時の災害

- (1) 落雪しそうな所には近づかない。あるいは、早めに除雪を行う。
- (2) 転落については、足場の確保と安全装備（ヘルメット、ロープ、安全带、梯子など）を準備します。
- (3) 除雪機の点検・整備は、エンジンを止めて行う。
- (4) 体調に配慮して無理のない範囲で除雪を行う。また、準備運動を行う。
除雪時も定期的に水分補給したり、休憩を取るように心掛ける。

4) 身近な場所での危険

- (1) 落雪事故・・・屋根から落ちる雪により、閉じ込められたり、
下敷きになることがあります。ときには死亡事故になることもあります。
- (2) 自動車事故・・・凍結した道路で車はコントロールを失うと、
停車できずにそのままの勢いで追突します。
スピードを控えて運転しましょう。
- (3) 歩行時の事故・・・除雪による雪溜りなどにより、歩道が十分に確保されていないことがあります。
その際は、除雪された車道の方を歩くことがあります。
このことから交通事故に発展することがあります。

雪深いところでは、雪の壁が交差点までに迫り、
直前まで先が見渡せないことがあります。
とても危険です。徐行してください。

- (4) 氷柱（つらら）・・・つい見逃しがちなのが、氷柱です。軒下などを歩いていると、強風などで突然落下してくることがあります。十分に注意してください。